

憲法を活かして 社会保障の充実を

別役 美佐



二宮厚美・神戸大学名誉教授の講演

第44回中央社会保障学校が、10月6日(木)から8日(土)までの3日間の日程で、高知市のグリーンホールや、高知城ホール(移動分科会)で開催されました。会場では、井上賢二会長(大阪社保協)に続き、高知県社保協の田中きよむ会長から、「平和を守る憲法9条と生活を守る憲法25条は、車の両輪です。」という今回の学校の主旨を簡潔に述べられ開校となりました。

二宮厚美・神戸大学名誉教授からは、「社会保障の拡充で経済・地域の再生を」と題して、「安倍政権のグローバ

ル競争力(軍事力・経済)を最優先していくと、9条と25条は邪魔なのです。デフレ不況は内需不振(雇用破壊)賃金低下(家計低迷)消費低迷の慢性化に起因しています。『税・社会保障一体改革』を呼び起こしたのがグローバル競争国家化路線であり、グローバルな競争力のためには、消費増税と法人減税が必要であるという理屈です。『消費税を社会保障にあてる』としたことで、『人権としての社会保障』から、『共助としての社

会保障』へと切り替えを図ったのです。憲法25条の解釈改憲をしているのです。アベノミクス不況打開には、『税・社会保障一体改革』を逆転し、社会保障の憲法原則に立ち戻り、応能負担原則による福祉財源の確保と現金・現物給付の拡充による内需打開で、経済の活性化を図ることが大切です。」と熱い口調で語りました。高退協の仲間も、憲法を置き去りに改悪の進む社会保障の在り方に「ひと言、申したく候」の心意気で参加していました。



川村さんの中国の旅から

怒りと願いの一筆 「年金一揆」から

別役 美佐

10月14日(金)、いつもならば「後期高齢者医療制度の廃止と憲法25条の会」(略称「憲法25条の会」)は、「昼休み県民集会」を行うのですが、今月は、「年金者組合」と共催で、「若者も！高齢者も！安心できる年金を！」と求める「年金一揆」に結集することとなりました。高退協もひと役を担った活動です。弁士は、マイクを片手に、「現在年金引き下げ違憲訴訟に全国で4500人立ち上がっています。」「今でさえ、暮らしていけない低額の年

金を下げて続けていくことは、『健康で文化的な生活』とは、無縁です。」と、「最低保障年金制度の創設」「年金制度改善」を訴えていきました。行き交う人々を振り向かせるには、十分すぎるほどの横断幕、そして、歌声と風船、あの手この手で、注目を図っての取り組みでした。署名をお願いすれば、次々、繰り出される制度や改悪への怒りを用紙に向けて記入してくれました。「夫が入院中よ。給食費の高さにびっくりしたわ。一食380円よ。高齢で小食なのに??。一か月も

すべての子どもにゆきとどいた教育を すすめるための請願書

*お届けしています。上記の教育署名の集約をしています。事務局の方へ返送をお願いいたします。

てね。」の思いも込められています。そんな中、40代の男性が、「僕たちが、年金をもらう時に、こうやって署名活動をする人たちがいるだろうか。頑張ってるよ。」との応援の声です。励まされました。「年金一揆」結果した人数は、25名。40分ほどの署名活動でしたが、75筆集めることができました。

「愛知から来た観光客ですけど、書いてもいいですか。」「私、服を購入するのを止めたがよ。今着ちゆう服は、20年前の服よ。」「一筆、一筆に、怒りの声が届められてます。そして、一筆、一筆に「何とかならんかね。」「なんとかし

原稿募集 機関誌こうたいきょう第37号

「特集」 『地域でいま生きる』

研究論文、自由論文、紀行文、文芸(詩・俳句・短歌・川柳)など、思っていることや、やっていること、これからの計画や夢、何でも気軽に書いて送って下さい。

同封しています「近況報告」のはがきは、ぜひ返信を。

なお、締め切りは、11月10日(木)に変更しました。

編集委員一同より

